

世界農業遺産に認定された「清流長良川の鮎」 長良川河口堰で稚アユの遡上見学会を開催！

今年も風薫る5月に入り、長良川河口堰では、昨年、世界農業遺産に認定された「清流長良川の鮎」の稚アユが伊勢湾から長良川を力強く上る姿が魚道観察室（アユ等の遡上状況をガラス越しに魚道の横から見られる所）で頻繁に見られるようになりました。

長良川河口堰管理所では、稚アユの遡上が盛んになる時期に魚道を元気よく遡上する稚アユを見ていただくために、マスコミの皆様を対象とした、稚アユ遡上見学会を開催いたします。

開催日は以下のとおりです。皆様のご来場をお待ちしております。

- ① 日 時：平成28年5月18日（水）13：30～
- ② 場 所：長良川左岸 魚道観察室にて
- ③ 集合場所：長良川河口堰管理所 2階大会議室
- ④ その他：この見学会は潮の関係で稚アユ遡上の可能性の高い日時を選ばせていただきました。



平成28年5月11日



独立行政法人水資源機構長良川河口堰管理所

発表記者クラブ

中部地方整備局記者クラブ
岐阜県政記者クラブ
三重県政記者クラブ
第二県政記者クラブ（三重県）
桑名記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 長良川河口堰管理所

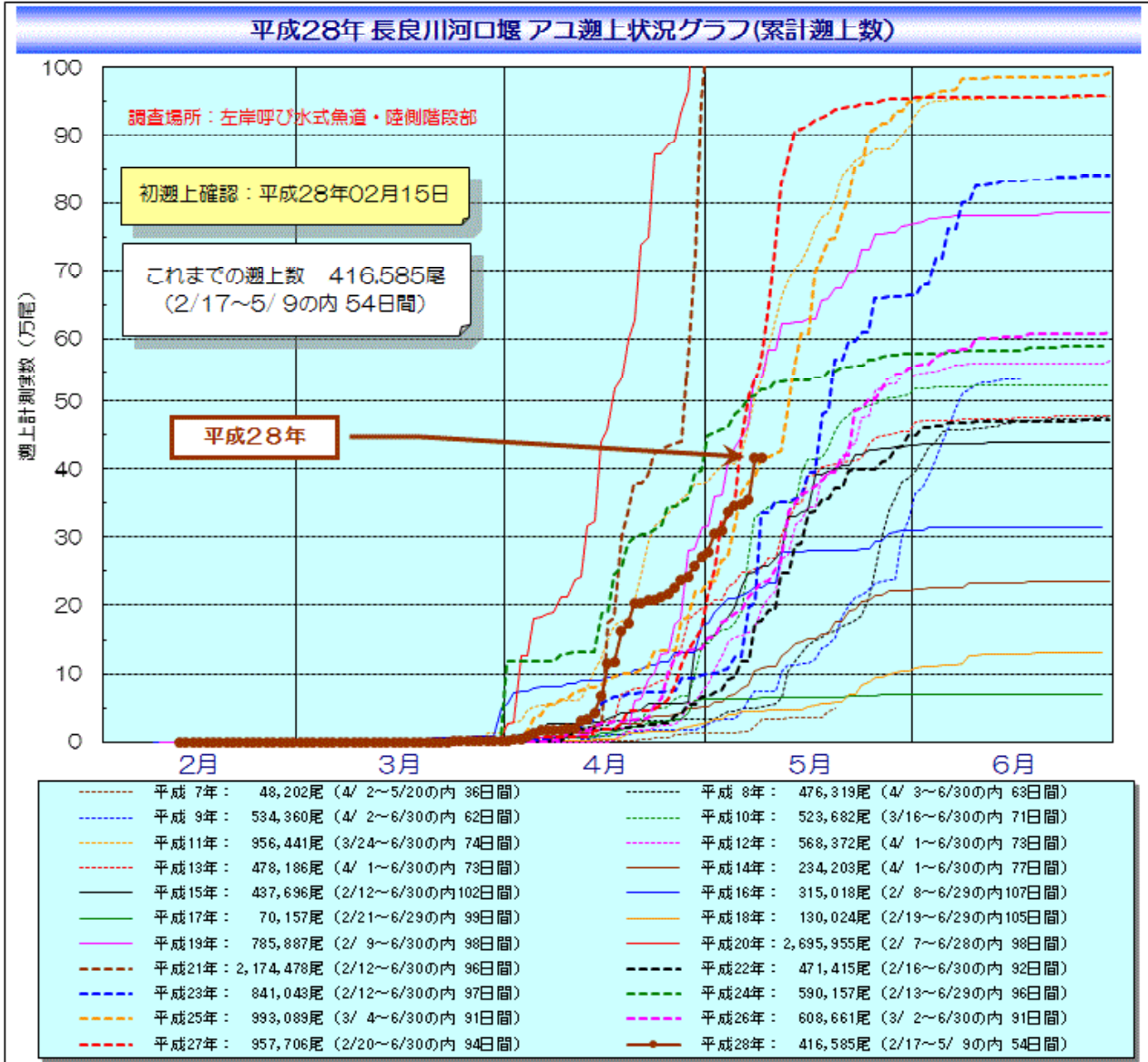
環境課長 山口（やまぐち）

電話：0594-42-5012

◆アユの遡上状況

平成28年5月9日時点での遡上数は416,585尾です。

この遡上数は、毎年の遡上数を比較する目安として、長良川河口堰の魚道のうち1箇所を調査しているものです。



(参考：アユの一生)

アユは、通常、春に川を遡り、夏に上流でなわばりを作り成長して、秋に川で産卵し、ふ化したアユの仔魚は海へ降下し、親アユは産卵後に一生を終えます。そのため年魚とも、独特の香りがすることから香魚とも言われます。



(平成28年5月4日 長良川河口堰呼び水式魚道を遡上する稚アユ)



(長良川のアユ：成魚)

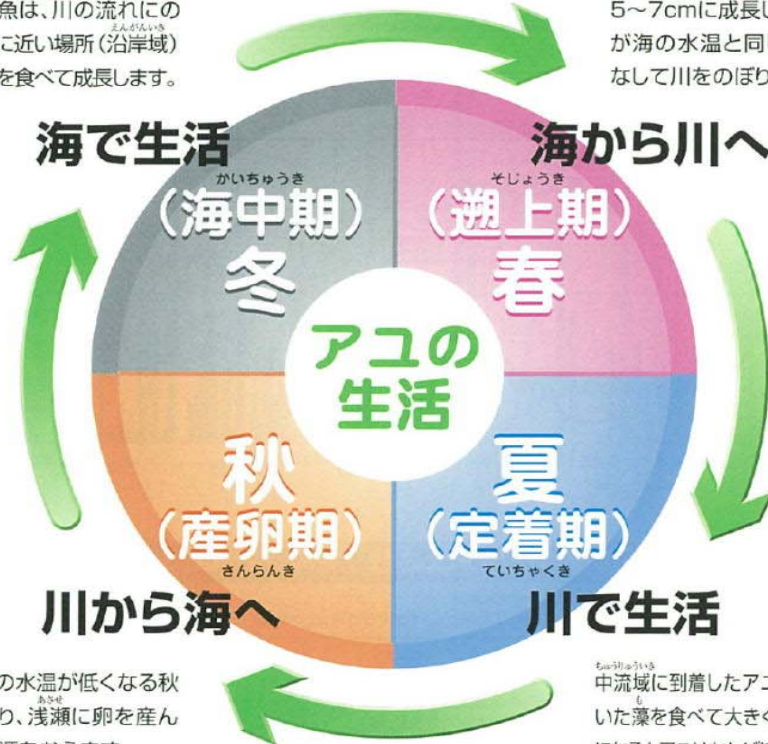
アユの一生



卵からかえった仔魚は、川の流れてのって海まで下り、岸に近い場所（沿岸域）で動物プランクトンを食べて成長します。



5~7cmに成長したアユは、川の水温が海の水温と同じになる頃におれをなして川をのぼり始めます。



成熟したアユは川の水温が低くなる秋になると下流におり、浅瀬に卵を産んだ後一年の短い生涯をおえます。



中流域に到着したアユは、川の石の表面についた藻を食べて大きくなります。また、この頃になるとアユはなわばりをつくるようになります。

